

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成28年2月12日
【四半期会計期間】	第55期第3四半期（自平成27年10月1日至平成27年12月31日）
【会社名】	株式会社エンチョー
【英訳名】	ENCHO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 遠藤 健夫
【本店の所在の場所】	静岡県富士市中央町2丁目12番12号
【電話番号】	(0545)57-0850
【事務連絡者氏名】	経営企画室長 鈴木 一精
【最寄りの連絡場所】	静岡県富士市中央町2丁目12番12号
【電話番号】	(0545)57-0850
【事務連絡者氏名】	経営企画室長 鈴木 一精
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第54期 第3四半期 連結累計期間	第55期 第3四半期 連結累計期間	第54期
会計期間	自平成26年4月1日 至平成26年12月31日	自平成27年4月1日 至平成27年12月31日	自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
売上高 (百万円)	32,494	31,516	41,494
経常利益 (百万円)	170	318	85
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	78	223	11
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	92	205	88
純資産額 (百万円)	9,458	9,346	9,277
総資産額 (百万円)	42,888	41,245	39,939
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	5.73	16.30	0.83
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	22.1	22.7	23.2

回次	第54期 第3四半期 連結会計期間	第55期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成26年10月1日 至平成26年12月31日	自平成27年10月1日 至平成27年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	11.17	10.26

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

なお、第1四半期連結累計期間より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）等を適用し、「四半期純利益」を「親会社株主に帰属する四半期純利益」としております。

#### （1）業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢に改善の動きがみられたものの、中国の景気減速への不安などから企業生産が落ち込んだことや長引く消費の低迷により、景気は足踏み状態が続いております。

ホームセンター業界におきましては、消費増税後の個人消費の回復が停滞していることに加え、異業種も含めた販売競争もあり、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社グループでは、地域の人々の快適な住まい・暮らしをサポートする企業グループを目指し、品揃え・価格・陳列方法などの観点から各定番商品の見直しを行い、お客様のニーズにお応えできる魅力ある店づくりに努めました。また、ホームセンター専門店化への推進や地域に根ざした店舗運営を事業活動の主軸とし、お客様満足向上に注力しました。

店舗の状況といたしましては、新規出店は「ハードストック」を1店舗、既存店の改装は「ジャンボエンチョー」を3店舗、「c a s a」を1店舗、「SWEN」を2店舗行いました。平成27年12月に行いました静岡県富士市にある「ジャンボエンチョー富士西店」の改装では、「新たな園芸顧客の獲得」と「個への対応」をコンセプトに、屋内外を問わずライフスタイルに応じたガーデニングの提案や手軽に楽しめるガーデニングの紹介、ガーデニングのもつ「癒し」の効果を訴求するなど、園芸・ガーデニングに特化した店づくりを行いました。また、お客様の買物環境の向上を目指し、一部駐車場設備の改修やお客様の生活シーンに沿った売場づくりに注力しました。

しかしながら、長引く消費マインドの低迷や暖冬により季節品が振るわなかった影響により、当第3四半期連結累計期間の売上高は、31,516百万円（前年同期比97.0%）となりました。利益につきましては、引き続きコスト削減を推進した結果、営業利益499百万円（同156.3%）、経常利益318百万円（同186.2%）、親会社株主に帰属する四半期純利益223百万円（同284.6%）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### （ホームセンター事業）

##### DIY用品

塗料、工具関連は前年を上回ったものの、リフォーム工事の受注減や暖冬による防寒作業衣料の販売不振などにより、売上高は17,140百万円（同98.1%）となりました。

##### 家庭用品

消費低迷により日用品・雑貨関連が前年を下回ったことや暖冬による暖房用品の販売不振などにより、売上高は9,874百万円（同94.2%）となりました。

##### カー・レジャー用品

自転車の販売が低調に推移した結果、売上高は1,161百万円（同96.3%）となりました。

以上の結果、ホームセンター事業の売上高は28,177百万円（同96.6%）、営業利益は274百万円（同129.7%）となりました。

( 専门店事業 )

専门店事業では、住宅メーカーとのタイアップによる販促の強化、店舗間での販売情報の共有化と在庫の平準化、商品仕入の精度向上に努めました。

以上の結果、専门店事業の売上高は2,456百万円(同94.4%)、セグメント利益(営業利益)は、27百万円(同404.5%)となりました。

( 2 ) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,306百万円増加し、41,245百万円となりました。

流動資産は15,931百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,823百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金の増加1,783百万円によるものであります。固定資産は25,314百万円となり、前連結会計年度末に比べ517百万円減少いたしました。これは主に建設仮勘定の減少210百万円、長期貸付金の減少74百万円、敷金及び保証金の減少161百万円によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,237百万円増加し、31,899百万円となりました。

流動負債は17,554百万円となり、前連結会計年度末に比べ676百万円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金の増加1,809百万円、短期借入金の減少2,466百万円によるものであります。固定負債は14,345百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,914百万円増加いたしました。これは主に社債の減少150百万円、長期借入金の増加2,293百万円、固定負債のその他の減少156百万円によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ68百万円増加し、9,346百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加86百万円によるものであります。この結果、自己資本比率は22.7%(前連結会計年度末は23.2%)となりました。

( 3 ) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

( 4 ) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	24,000,000
計	24,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成27年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成28年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	13,714,995	13,714,995	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	13,714,995	13,714,995	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年10月1日～ 平成27年12月31日	-	13,714,995	-	2,902	-	3,435

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成27年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成27年12月31日現在

区 分	株式数（株）	議決権の数（個）	内 容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 35,000	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 13,624,000	13,624	-
単元未満株式	普通株式 55,995	-	-
発行済株式総数	13,714,995	-	-
総株主の議決権	-	13,624	-

【自己株式等】

平成27年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
株式会社エンチョー	静岡県富士市中央町2丁目12番12号	35,000	-	35,000	0.26
計	-	35,000	-	35,000	0.26

（注） 当第3四半期会計期間末における自己株式数は35,843株であります。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,115	3,899
受取手形及び売掛金	769	979
商品	10,450	10,499
仕掛品	25	16
貯蔵品	21	26
繰延税金資産	116	66
その他	608	444
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	14,107	15,931
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,578	7,641
土地	11,767	11,767
建設仮勘定	238	27
その他(純額)	1,238	1,187
有形固定資産合計	20,822	20,623
無形固定資産		
89	89	89
投資その他の資産		
投資有価証券	591	571
長期貸付金	1,280	1,206
敷金及び保証金	2,205	2,043
繰延税金資産	312	282
その他	537	504
貸倒引当金	8	7
投資その他の資産合計	4,918	4,600
固定資産合計	25,831	25,314
資産合計	39,939	41,245
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,921	7,730
短期借入金	9,443	6,976
未払法人税等	25	53
その他	2,840	2,793
流動負債合計	18,230	17,554
固定負債		
社債	150	-
長期借入金	8,701	10,994
退職給付に係る負債	790	695
資産除去債務	375	397
その他	2,414	2,257
固定負債合計	12,431	14,345
負債合計	30,661	31,899

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,902	2,902
資本剰余金	3,435	3,435
利益剰余金	2,731	2,817
自己株式	15	15
株主資本合計	9,054	9,140
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	143	140
退職給付に係る調整累計額	79	66
その他の包括利益累計額合計	223	206
純資産合計	9,277	9,346
負債純資産合計	39,939	41,245

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	32,494	31,516
売上原価	23,290	22,568
売上総利益	9,204	8,948
営業収入	889	881
営業総利益	10,093	9,830
販売費及び一般管理費	9,774	9,330
営業利益	319	499
営業外収益		
受取利息	21	19
受取配当金	10	12
その他	81	39
営業外収益合計	113	72
営業外費用		
支払利息	188	165
シンジケートローン手数料	54	79
その他	19	7
営業外費用合計	262	253
経常利益	170	318
特別利益		
投資有価証券売却益	-	37
特別利益合計	-	37
特別損失		
減損損失	-	7
店舗閉鎖損失	20	-
出店計画中止損	-	2
特別損失合計	20	10
税金等調整前四半期純利益	150	345
法人税、住民税及び事業税	23	34
法人税等調整額	48	88
法人税等合計	71	122
四半期純利益	78	223
親会社株主に帰属する四半期純利益	78	223

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	78	223
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	35	3
退職給付に係る調整額	21	13
その他の包括利益合計	13	17
四半期包括利益	92	205
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	92	205
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。 )及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。 )等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2項(4)、連結会計基準第44 - 5項(4)及び事業分離等会計基準第57 - 4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 偶発債務  
保証債務

下記の連結会社以外の会社の金融機関よりの借入に対し債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
(株)無量寿 270百万円	(株)無量寿 270百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
減価償却費	679百万円	667百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月26日 取締役会	普通株式	68	5.00	平成26年3月31日	平成26年6月9日	利益剰余金
平成26年10月30日 取締役会	普通株式	68	5.00	平成26年9月30日	平成26年12月5日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月25日 取締役会	普通株式	68	5.00	平成27年3月31日	平成27年6月8日	利益剰余金
平成27年10月30日 取締役会	普通株式	68	5.00	平成27年9月30日	平成27年12月4日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	ホームセン ター事業	専門店 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	29,159	2,601	31,760	733	32,494	-	32,494
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	-	775	775	775	-
計	29,159	2,601	31,760	1,509	33,270	775	32,494
セグメント利益	211	6	217	68	286	32	319

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、木材卸売事業及び情報処理・プログラム開発事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

利益	金額
セグメント間取引消去	2
全社費用の配賦額の予算実績差異	34
合計	32

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	ホームセン ター事業	専門店 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	28,177	2,456	30,634	882	31,516	-	31,516
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	-	741	741	741	-
計	28,177	2,456	30,634	1,623	32,257	741	31,516
セグメント利益	274	27	301	103	405	94	499

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、木材卸売事業及び情報処理・プログラム開発事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

利益	金額
セグメント間取引消去	3
全社費用の配賦額の予算実績差異	90
合計	94

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

( 1 株当たり情報 )

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 ( 自 平成26年 4 月 1 日 至 平成26年12月31日 )	当第 3 四半期連結累計期間 ( 自 平成27年 4 月 1 日 至 平成27年12月31日 )
1 株当たり四半期純利益金額	5円73銭	16円30銭
( 算定上の基礎 )		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 ( 百万円 )	78	223
普通株主に帰属しない金額 ( 百万円 )	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額 ( 百万円 )	78	223
普通株式の期中平均株式数 ( 千株 )	13,681	13,679

( 注 ) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

2 【その他】

第55期 ( 平成27年 4 月 1 日から平成28年 3 月31日まで ) 中間配当については、平成27年10月30日開催の取締役会において、平成27年 9 月30日現在の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- ( 1 ) 配当金の総額            68百万円
- ( 2 ) 1 株当たり配当額       5 円00銭
- ( 3 ) 効力発生日            平成27年12月 4 日

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 2月12日

株式会社エンチャー

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 岡本 和巳 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 谷口 公一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エンチャーの平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エンチャー及び連結子会社の平成27年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。